

6年間のモルモット飼育を通じた 学校とのかかわりあいについて

泉本桂子

先日、私の元に小学校からの招待状が届きました。3年生の子ども達からの招待状でした。

開けてみるとモルモットが飛び出すカードとなっていて、「ミルクちゃんのおそう式しょうたいじょう」と書いてありました。

2020年6月に7歳を目前に控えたモルモットのミルクちゃんが亡くなりました。コロナウイルスの感染拡大に伴う休校から、学校が開始されてから約2週間後の事でした。

今回はこの小学校との動物飼育を通じての私とのかかわりをお伝えしたいと思います。

福井県獣医師会では、2011年度から学校飼育動物のモデル校を設定し小学校での動物飼育支援を行っています。また、モデル校の設定以外にも市町村単位での学校の生活科の講習を行っています。この講習会を受講した先生からの依頼を受けこの小学校ではモルモットの飼育が開始されました。

1 出会い

2013年10月小学校でのモルモット飼育が開始されました。

生後2か月令の小さなモルモットを連れて訪問、この時のモルモットの体重は340g.

新たに飼育を始めるモルモットとの出会いを楽しみにしていた子ども達のきらきらした顔の前で、毎日のお世話の仕方、抱っこの仕方を話してモルモットをお渡ししてきました。

飼育開始を大きく後押ししてくれた先生や子ども達がとても楽しそうに迎え入れてくれたことを思い出します。

モルモットの飼育は2年生が担当、お当番さんの班で世話をを行い2クラス行き来するというものでした。

その後飼育は順調に継続され、私との関



飼育開始時のミルクちゃん



年1回の飼育指導時の様子

わりは年1回程度の学校訪問や動物病院での検診を行う程度でした。

そして、飼育開始から5年目この小学校の統合が決まったのです。

2 引っ越し



新校舎での飼育開始

2019年4月近隣の小学校4校が統合され1校になりました。この統合の際、新規の小学校で今まで通りモルモットの飼育が継続できるかどうか、不明のため（新しい小学校の校長先生がどなたになるのか分からず決定権が不明というのが主な理由）この統合の際の時にモルモットを3カ月ほど私の動物病院で預かりました。無事新小学校での飼育が決定。

学校が落ち着いた5月にモルモットを連れて行きました。

この時は私以外にも、福井県獣医師会の仲間の獣医師も同行しました。今まで動物飼育を経験していない子ども達も大勢いたのでその様な子ども達はより一層の興味を示してくれました。

ふれあいの授業を行うと授業の最初と最後で子ども達の表情が変化することを感じます。抱っこできなかった子どもがモ

ルモットを抱っこできるようになった時の自信にあふれた笑顔。ふれあいの時間はわずかなのですが、この数分で子ども達の顔が変わります。出来なかったことが出来るようになった瞬間の笑顔はたまりません。この経験をした子ども達は次の飼育から積極性が変わるそうです。



入院したてのミルクちゃん



面会に来てくれたお友達

3 小学校の休校、そして体調不良

2020年3月に新型コロナウイルス感染症拡大予防のため小学校が休校。この休校の1週間後小学校から連絡がありました。「ミルクちゃんの足が動かないんです。」と。

診察してみると骨変形を伴う後躯麻痺が起きていました。学校での飼育は難しいと判断し、私の所で預かることにしました。当初学校は春休み期間までの休校の予定でしたが、延期延期を繰り返し6月に入る

まで学校は再開されませんでした。が、どんどん弱っていくミルクちゃん。左後肢麻痺だけでなく右後肢麻痺も出て、5月には更に左前肢も疲労骨折してしまっていました。

担任の先生も何度も面会に来てくださり、休校に入る前の元気な姿しか見ていなかった子ども達へ病状を伝える手段を考えました。学校から配られるお便りに状況を書いていただき、動物病院へ面会に来てもらえるような面会日を設け、対応しました。面会日には数名の子ども達が来てくれました。保護者の送迎がないと動物病院への来院もできないので、このような子ども達のために獣医師会のブログからアクセスできるように YouTube にミルクちゃんの闘病生活の動画をアップしました。後肢麻痺や左手が不自由になってもエサの器を口で引っ張ってエサを食べてくれる様子は、私たちに生きる勇気あたえてくれているようでした。



ミルクちゃんの様子を YouTube に up

4 学校再開

2020年6月学校再開。

学校が再開されるまで、頑張って、と願っていた中で何とか6月の学校再開まで生きてくれたミルクちゃん。そろそろ学校みんなに会いに行こうか、と教頭先生と訪問日時の予定を立てることを検討していた最中に、モリモリ食べていたご飯を食べなくなり、

6月24日静かに息を引き取りました。

教頭先生に連絡後、子ども達にお返すために遺体とともに、学校へ行きました。休校中の3カ月の間の変化、頭では理解していても変わってしまった姿を受け入れるのは子ども達には難しかったかもしれません。肌で触れた時の冷たい感触に固まってしまっていた子もいました。

学校にお墓を作ってくれるという事を聞き、安心して私の役目はこれで終わり、とっていました。

ところが、9月末子ども達からの招待状が届いたのです。



子どもたちから届いた招待状

5 お葬式

2020年10月5日

この日はあいにくの雨で、お葬式は体育館で行われました。体育館に子ども達の作った祭壇があり、この前でお葬式は行われました。みんなでミルクちゃんの振り返りを行って、一人ずつ手を合わせておまいりをしました。

当日参列していた教頭先生が、休校中のミルクちゃんの事を話した後

「世の中には絶対と言い切れることが少ない中、絶対、と言えることが一つあります。命には絶対に終わりがあるのです。だからみんなもミルクちゃんが教えてくれた、生きているすばらしさという事を大切にして過ごしてほしい。」と言っていました。

した。

教頭先生は学校が再開したタイミング



大きな音と供にミルクちゃんの魂は無事に天国へ旅立ったようでした。

6 ミルクちゃんがくれた出会い

この6年間で動物飼育に関わってくれた人々の様々な喜怒哀楽を見せてもらいました。いつもたくさんの笑顔をくれる子ども達。学校で飼育が出来るようにしてくれた先生。学校の統廃合でも飼育を継続できるように尽力してくれた校長先生。闘病生活中に何度もミルクちゃんに会いに来てくれた先生方。保護者の方。また、今回の場合は休校中に担任の先生が移動になり、その後を担当してくれた教頭先生が非常に細かに打ち合わせをしてくださいました。気づけば、最初に飼育に関わった子ども達はもう中学生になっています。

動物飼育のお手伝いをしていなかったら関わることのなかった人々。学校では私が表現できない部分を言葉にして子ども達に説明して下さった先生方。特に教頭先生や校長先生からのお言葉は心に響きます。

言葉で表現をしていただくことで「動物と一緒に過ごす良さを最大限に引き出してくれている」と常々感じています。「命と触れ合う事でたくさんの事を学ぶ」という目標のもとに動物飼育のお手伝いをしていますが、この活動の中で私は常に優しさに触れ合いながら過ごしています。

学校の先生方と連携が取れ、子ども達にいい影響が与えられたかな、と思える6年間の出来事でした。

(わかさ動物病院副院長／(公社)福井県獣医師会学校飼育動物事業委員会副委員長)



子どもたちが企画し、すべて自分たちで行ったお葬式

で、すぐにミルクちゃんと子ども達を再開させてあげられなかった事を非常に悔いでいました。今までに経験したことのないこのコロナ禍では仕方のなかったことなのに。最後に歌を歌って、風船を飛ばすセレモニーを行いました。